

## 平成24年度第5回伊勢市環境審議会 議事録

平成 25 年 2 月 28 日（木）

15 : 00～17 : 15

伊勢市役所東庁舎 4 - 3 会議室

事務局：すいません。定刻より 2 分ほど早いのですが、深草副会長におかれましては、前の会議がおしているとの連絡がありましたので、ただいまより、審議会のほうをお願いしたいと思います。本日はまた、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。地球温暖化防止実行計画におきまして、昨年 12 月 19 日策定することができました。本当にありがとうございました。本当に非常に厳しい目標ではありますが、30%削減に向けて一生懸命がんばっていきたいというふうに思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。本日は審議会の位置づけ等を含めてお話をさせていただきたいと思ひますけれども、環境審議会の委員の任期は 2 年でございます。したがって、23 年、24 年の皆様方にはいろいろお世話になりました。今日がそういうこともありまして、環境審議会の最終回と申しますか 2 年間の最終回ということになりますので、よろしくお願ひします。さきほども話をさせていただきましたけれども、平成 23、24 につきましては、「エネルギーの地産地消」であったりとか、「地球温暖化防止実行計画」ということで、大変ご審議をいただきました。回数もたくさん集まっていたいて、中にはワーキンググループでのご協賛もいただきました。本当にお世話になりました。ありがとうございます。今日はですね、「環境報告書」の事務局からの報告と事項書にありますように、平成 23 から 24 年環境審議会の活動等について、ご議論いただきたいと思ひます。「環境報告書」につきましては、事務局から報告事項となりますので、疑問等がございましたら、ご意見をいただきたいと思ひます。それでは、平成 23 年、24 年環境審議会の活動等につきましては、2 年間の活動を振り返っていただいた中で、言い足りなかったこと、今後の環境行政への意見等もいろいろいただきたいと思ひしておりますので、よろしくお願ひします。2 年間「温暖化計画」が中心でしたが、それ以外にも、ご意見等を頂戴したいと思ひますのでよろしくお願ひします。それでは早速ではございますけれども、朴先生のほうで進行のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

朴会長：はい。皆様、こんにちは。今年は冬が寒い関係で花粉症の私にとっては、薬なしでやっているんだけど、今日暖かかったし、1時間ぐらい早く来て、外宮とか少ししか回れなかったけど、結構、最近人が増えてきた。テレビなどの取材も来ている、人にインタビューしたりして、活気がどんどん来る度に増えているなと思って回っていたら、花粉症がひどくなってきたんだけど、13万のまちに1000万人の人が式年遷宮でくると単純計算して100倍以上の人が来るので、ほこりと二酸化炭素とか汚染物質だけ残して帰るのではなく、いいイメージを持って、伊勢が環境に対してがんばっているところに協力してもらえる。目標あるというか啓発というかそういうことも必要なのかなと思いついて回ってみました。そういう意味で、事務局やみなさんのご尽力だと思いますが、「広報いせ」にぱっと見た感じ非常によくまとまっていると感じました。これが、2020年までに待つことなく、1年でも2年でも早く実現できるようになればいいなと思っています。そういう意味で2年間環境審議会でいっしょに話をさせていただいて、今日はある意味では総括というか、全体から。市が作った「環境報告書」あるいは、庁内でいろいろ話し合いをしながら、成果とか出させていただいて、その部分に対してどうなっているのかを事項書に基づきまして、話を進めさせていただきたいと思います。それは、大変重要なことなので、皆さんの話をいただきますけども、普段思っていなかったことやもっとこうしたらよいと思うことや伊勢のためにはもっとこうあるべきではないかというような貴重なご意見を議事録には載せない部分もあるかと思いますが、ご理解していただいたうえで、更なる発展のために意見交換ができれば、いいなあと思っていますので、よろしくをお願いします。それでは、まず、「伊勢市環境報告書」についてから始めさせていただきたいと思います。

事務局：それでは、事前に送付させていただきました、「伊勢市環境報告書」について報告させていただきます。事前に送付させていただきました、「平成23年度環境報告書」をご覧くださいと思います。

朴会長：みなさん資料はありますか。

事務局：事前に送付させていただきました、「平成23年度環境報告書」をご覧くださいと思います。まず、表紙をめくっていただいて、1ページ

になるんですけれども、こちらには環境基本計画の位置付けのことを記載させていただいております。そして、2 ページ、3 ページにはこの報告書の読み方を記載させていただきました。さらに、もう一枚めくっていただきますと、5 ページ以降には「平成 23 年度の施策の展開状況」ということで、伊勢の環境の保全のために展開した主な施策・事業及びその実績について、紹介をさせていただいております。本日はその中でも特に積極的に推進するものとして環境基本計画に位置づけております重点事業についてご説明させていただきたいと思っております。

それでは、まず、5 ページにあります、基本目標 1. 「地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型社会のまち」としまして、(1) 「計画的な推進体制の確立」、① 「地球温暖化防止推進計画の策定」では、地球温暖化防止に向けた取組を、総合的・計画的に推進するための方針を策定します。ということで、「伊勢市地球温暖化防止推進計画の策定」を重点事業の 1 つ目に位置づけております。平成 23 年 5 月 9 日に、伊勢市環境審議会に「伊勢市の“エネルギーの地産地消”についての具体的取り組みを含めた『伊勢市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）』」について諮問し、“エネルギーの地産地消”について、平成 23 年 10 月 19 日付けで答申を受けました。そして、今年度も引き続き皆さんにご協力いただきまして、先ほども紹介があったとおり、平成 24 年 12 月に伊勢市地球温暖化防止実行計画を策定いたしました。

続きまして、(2) 「資源・エネルギーの有効利用」、① 「新エネルギーの導入の推進」では、環境負荷の少ない新エネルギー機器等の普及を進めます。ということで、「家庭用太陽光発電機器設置の推進」を重点事業の 2 つ目に位置づけております。平成 23 年度においては、太陽光発電機器設置の促進のため、太陽光発電設置世帯に対し 1 件あたり 6 万円の補助を行いました。平成 23 年度は 397 件の設置があり、実績としましては、1061 件となり、目標の 1000 件に到達いたしました。更に、今年度は住宅、事業所等に対し、420 件の補助金枠を設けており、現在の申請件数は 370 件あり、設置件数はさらに増える見込みとなっています。続きまして、6 ページをご覧ください。② 「資源、エネルギーの循環利用の推進」では、資源循環型社会構築のため、資源・エネルギーを循環させる仕組みづくりを行います。ということで、一つ目の黒丸、「天ぷら油のバイオディーゼル燃料としての再利用」を重点事業の 3 つ目に位置づけております。これは、廃食用油を分別回収し、バイオディーゼル燃料や市内公衆浴場の代替燃料として再利用を図りました。平成 23 年度

の実績は31,6430となりました。また、今年度は平成25年1月までの回収実績で25,1680となっています。目標値にはまだ遠い値となっていますが、今後も啓発活動を行って行きたいという風に聞いております。

続きまして、次の黒丸、「生ごみ等のバイオガス利用の検討」を重点事業の4つ目に位置づけております。平成22年度まで、伊勢商工会議所環境委員会生ごみ（新エネ）研究会に参加をさせていただきまして、生ごみバイオガス利用の事業化に向けた検討を行ってききましたが、現状においては、資源化施設の建設の他、現焼却施設においても多額の改修費を要することから事業化の好期とは言えず、実施は困難であると判断し、これまでの検討結果については、現焼却施設の更新の際の検討資料として活用することとしました。

続きまして、8ページをご覧ください。(3)「3Rの推進」の中の、④「推進基盤の整備」ですが、3Rを地域全体として進める基盤として、ごみ収集方法「当」。「等」の字が間違っていますが、ごみ収集方法等の統一を進めます。ということで、「ごみの収集方法の統一」を重点事業の5つ目に位置づけております。市内全域における燃えるごみの集積化を実現、維持するために、自治会等の協力を得てごみ集積所の設置・修繕を行いました。その結果、平成23年度の実績は99.7%となりました。今後も引き続き100%を目指して、働きかけを行って行きたいという風に聞いております。

次に11ページをご覧ください。分野別の目標の2つ目としまして、基本目標2「豊かな自然が守られた、水と緑と人が共生する魅力あるまち」としまして、(1)「自然環境の保全」ということで、重点事業はページをめくっていただいて、12ページになるのですが、③「生活排水対策の推進」ということで、2つ目の黒丸、「生活排水対策ハード整備の推進」を重点事業の6つ目に位置づけております。これは、第3期事業認可区域を拡大し整備すると共に、第2期事業認可区域の完成を目指し、下水道供用区域の拡大を図りました。実績としましては、平成23年度に下水道普及率が41.2%、市内全域の水洗化率が54.1%となっています。

次に14ページをご覧ください。(2)「公益機能の保全」ということで、②「農地の公益機能の保全」としまして、農地の有する公益的機能（自然災害の防止、景観形成等）を発揮することができるよう、農地の保全を図りますということで、「遊休農地の利活用」を重点事業の7つ目に位置づけております。遊休農地の割合は下の表を見ていただきますと、

平成 22 年度の法改正により、算出方法が変わったことにより正確な面積を把握できるようになったため、平成 22 年度は 3.8%となったのですが、平成 23 年度は 3.1%と減少しております。

次に、18 ページをご覧ください。分野別目標の 3 つ目としまして、基本目標 3、「歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち」ということで、重点事業については 20 ページをご覧ください。④「伊勢の環境文化の保全と発信」ということで、「伊勢の環境についての情報発信、PR の推進」を重点事業の 8 つ目に位置づけております。市の環境施策に関する情報について、広報や市HP、iTVなどで情報発信を行いました。目標値は、下の表のとおり、市HPにおける環境関連コンテンツ数をあげているのですが、平成 23 年度より市のHPシステムの切り替えにより数値化が不可能となりました。しかし、情報の発信について、数だけではなく、中身も重要だと考えておりますので、今後も、目標値にかかわらず、さまざまな媒体を通じて情報の発信に努めていきたいと思っております。

次に 23 ページをご覧ください。分野別目標の 4 つ目としまして、基本目標 4、「協働でつくる、人と環境にやさしいまち」という目標がございますが、こちらの基本目標 4 には重点事業を設けておりませんので、説明は省かせていただきます。以上が平成 23 年度の取組内容でございます。よろしく申し上げます。

朴会長：はい。ありがとうございました。ただいまの「平成 23 年伊勢市環境報告書」。あれ、平成 23 年度？今平成 25 年。平成 24 年度はまだ

事務局：はい。平成 24 年度は、まだありますから。

朴会長：ということは、1 年、2 年というかありますね。わかりました。ただいまの説明に対して、皆さんのほうから質問や意見ありますでしょうか。この「環境報告書」の扱いについて教えていただけませんか。伊勢市は ISO14001 は返上しましたよね。

事務局：はい

朴会長：自主宣言といえますか、自主的に取り組むという形でやっていく。それで PDCA サイクルを回すことになるだろう。清掃課、〇〇課というと

ころにたぶん資料を取りに行くのか、報告していただくのか。この報告書はその後どういう風に活かすのかあるいは、どのように扱うのでしたっけ。置いておだけなのか。HP やあるいは何かで市民に

事務局：HP にはあげてはおりませんのですけれども、先ほど会長がおっしゃっていただいたように ISO を返上しまして、庁内で「環境管理システム」を立ち上げております。庁内では「環境管理委員会」上が副市長が主になりまして、各部長が委員になりまして、参画をいただいております。その中で全体の庁内の取組として、報告をさせていただいたりとか、目標値の設定したりとかそういうことにも活用させていただいております。

朴会長：これは、市長へも報告がされていますか

事務局：えー

朴会長；そこはつきりしないと困りますね。なぜならトップマネジメントなので、一応 ISO14001 は返上したとはいえ、自主的に回していく、一番見直しをかけないといけないのは、この伊勢市のトップがやらないといけないんだと思います。このトップがいやいやトップではなく、副市長がトップの代わりの副市長にやらせるんだ、というように副市長がトップの代わりに総括をやる環境責任者だという位置づけであればいいけど。そうでないならば、なんらかの形で市長に報告し、そこに係わる見直しを。硬い拘束力をもっていないけど、ここは、ちょっとこうの方がいいね。とかこの辺はまだ大変だとか。そういう様な意見が出るはずで、おそらくそれを見直しに反映しなければならない。ISO14001 たぶんみんな自主努力ができなくて、コンサルに任せるのが多かった中で、大変だからということではほとんどダメになったというんだけど、そういうふうに分の首を絞めることをしないにしてもマネジメントシステムとしては非常に核になることなので、ぜひとも市長報告しなければならない。そこから市長がどういふ見直しをしようとしているのか、そこをある程度の期間をおいて市長も読まないといけないので、すこしでも目標修正をいくらかでも可能ですので、一回100%作ったら何がなんでも100%から99.9%になったらダメという事はありませんので、毎年の見直しというのは問題ありません。ただ、あんまり26年度まで出ていたものを25年度に100%であったものが、

30 だとか明らかにできないという理由を説明できない限り、目標値がでたらめのものだとしたら、何だという理由をつけない限り、極端なことをできないにしても、見直しは可能ですので、そういう形で継続的發展していくようなシステムにこの報告書が生きていかないとたぶん報告書のための報告書として終わってしまうので、それならば、これだけのエネルギーをかけて、調査してこれだけ表を作ってムダになってしまうので、それは、ぜひとも環境の皆さんがリーダーシップを取って、こういう風に見直しましたよ。とかこういう風になりましたよ。ひとまとめにして、それぞれのところにあげる。そして来年もよろしく。ということでやっていく必要もあるので、よろしく願います。

大西委員：2、3 ちょっとお伺いしたいのですが、この環境報告書、これ以前は「えこのおと」という形で出されておったものですか。

事務局：そうです。

大西委員：「えこのおと」がこの環境報告書になったと。会長から話がありました ISO14001 と環境管理システムの関係で市長へのフィードバックもさることながら、この環境報告書というのは、伊勢市の環境の現状が今どういう現状にあるか。23 年度にどのような施策を実施したか、その結果を報告する。市民に公表するひとつの報告書としての意味があると思うんですね。ですから、「えこのおと」は、インターネットで掲載していたが、22 年度から出てこない。これこそインターネットで掲載すべき資料ですよ。ですから、環境の現状が今どうなっているのかこれを見たら、伊勢市の現状がわかる。どういう対策が行われているのか。これを見ればわかるという性格のものですから、ぜひそういう位置付けにさせていただきたいと思います。これは、まだ公表されていないんですね。

事務局：はいそうです。

大西委員：2、3 疑問に思うますのは、5 ページ見ていただけますか。この一番下の表ありますね。太陽光発電機器の設置件数これの目標値が一般家庭における設置件数。この各年度の数字は実績なんでしょう。

事務局：累積の実績です。

大西委員：累積の実績ですか。それで、26年度で累積1000件を目指しますと。そういう意味なんですね。表は累積の実績。これ目標値なのかなと読んでしまいます。例えば6ページもてんぷら油の分別回収量。これは、累積の回収量が82,000ℓ。

事務局：これは、単年度

大西委員：各年度の実績なのか、累積なのかよくわからない。まだ公表していなければ、もうちょっとわかりやすい表現にしてはどうか。というのが1点。

事務局：わかりました。

大西委員：それとね、13ページの河川海域の数値のデータは伊勢市が独自に作成したものでですか。

事務局：県の数値です。

大西委員：県の数値ですか。別に引用してもいいと思うんですけども、調査をしました。というのがこういう表現でいいのかクエスチョンマーク。市内河川、幹線排水路、海域の水質汚濁状況について、次のとおり調査しました。右のほうに括弧書きで断りを書くとか。ここまで県のデータを使って、伊勢地域の水質のデータを書くのであれば、私非常に今の時期ですね、PM2.5が話題になっていますよね。大気について全然触れられていない。厚生中学校に県の大気汚染自動測定器が市内に唯一ありますから、測定データもあるわけですから、PM2.5に対する不安があるかもしれませんから、伊勢市の大気状況はこうです。これは、県の大気汚染自動測定器の厚生中学校におけるデータです。と括弧書きで書くとかそういうのも載せないと、ちょっとタイムリーな情報にならないと思います。以前はこのようなスタイルだったかもしれませんが、これを見れば、伊勢の環境の現状がどうなんだというのがわかる環境報告書にしてやったらどうだと。それで、「えこのおと」を引き継ぐのであれば、「えこのおと」もインターネットに出ていたわけだから、これは、公表すべきものだと思いますよ。

事務局：今おっしゃっていただいた 12 ページ、13 ページのデータについては、市としても調査をしており 12 ページに記載していますが、16 ページも含めまして、出典の明示が抜けておりましたので、どちらが県のデータで市のデータなのかわかりませんので改めて整理をさせていただきます。先ほどの目標値、現状値も含めて、それが、単年度の値なのか累積値なのかの判別についてもわかるような表示の仕方をさせていただきたいと思います。今こちらの環境報告書については、環境基本計画の目標毎に一度作らせていただきましたが、今ご指摘いただきましたように、今日的な大気のことについても非常に関心ごととなっておりますので、記載の方法を検討させていただきたいと思います。

朴会長：ちょっといいですか。論外ですよこれ。大西さんの指摘は基本中の基本であなたたち何を考えているんですか。県のことをそのまんまなんの断りもなく、自分たちが調査しましたというように書いているこれは、なにを書いているのか。愕然としている。この数字どこからどこまで信用すればいいんですか。もしそうだとすれば、1 ページから最後のページまで。何考えているのか。基本ができていませんよ。今までそのようにやってきたんですか。

事務局：申し訳ございません。

朴会長：6 万円で年間 1000 件とって 6000 万円もかけて補助金をやるんだったらすごいなと思っていたら。そういうことは、平成 21 年から 22 年は 80 件。だいたい 480 万円。平成 23 年度は 400 件。だいたい 2400 万円。そうなれば、なぜ積算する必要があるのですか。26 年度の目標値が積算だからですか。

事務局：環境基本計画の中で

朴会長：1000 件を積算とするならば、そういう風にしないと、他のところは単年度で計算をして、予算立ててやっているものが、どれだけ実施して、上がって、足りなくて、前私たちの「エネルギーの地産地消」時の説明では、そういう風になってなかったですよ。多くて、多くて、臨時的なものを入れても入れてもたくさん申請があり大変でした。という形で説明しませんでしたか。最初いくらの予算だったので、人たちが

たくさん来たから予算で 1000 万から 2000 万というのはどういうことだったんですか。私たちが「エネルギーの地産地消」のところで、エネルギーの消費量を 30%抑制して、それに合わせた形で、二酸化炭素何かが何でもがんばってやるぞという形で、すごい運輸とか-58%とかとんでもないようなそれでもやるぞという形で出しているという形の裏の根拠がどういう風に毎年プラス方向にやっていくのかという形である時の議論では積算値というような、累積値というようなことは言われなかったと思いますよ。すごいなど。市はお金もないのに太陽光を普及させるために何千万円というお金を投入してさすがだなど。だからここから見ると、平成 26 年度で 1000 件はすでに 23 年で達成しているんだけど、平成 23 年度は 6000 万円出しているのかと。用意しているのか。私だけの勘違いかもしれないが、そういうような感じで考え、答申書を出したような気がするが、毎年だいたい 500 万円ぐらいだったんですか。

事務局：21 年、22 年につきましては、80 件で、500 万円ぐらいでしたけども、23 年、24 年につきましては、420 件見ておりますので、2500 万円くらい。

朴会長：500 万円くらいだったのががんばって 2000 万円に跳ね上がって大変だったけどもやりました。そうならば、そういうような表現のほうがよっぽど、伊勢市民に訴えればいいのではないですか。だって目標値としては累積だけど、単年度にしたらこうなるんだ、ともうちょっと発想をやわらかくして、これはわからない市民に見せるんだ。環境課だけでない市内の人たちにも見せるんだ。ここまでやる気があれば、予算措置がない中で、こんなにもできる。ということを見せるためのトーンがあるんじゃないですか。それと難しいのはわかりますが、例えば 12 ページから 13 ページに何にも説明がないじゃないですか。例えば河川の BOD で少なくとも勢田川はすごくどぶ川みたいになっていたけど、だんだんみんなの協力や下水道の普及によって、だんだんよくなってきて、平成 23 年度は基準値以下だし、ワースト 1 を返上できるまで行きました。何がどうなりましたとかを表見ればわかるだろうではなくて、ある程度のわかる範囲内で結構ですけれども、表見ればいいではないでしょうか。ここに、すべての河川について説明しろではなく、地元のみなさんから見ると宮川は日本一の清流である一方、勢田川みたいなのも流れている伊勢がみなさんががんばって努力して、

ここまでなったんだ。とかそういうようなことを書いたらどうでしょうか。全部でなくても、これだ、これだというようなところには、ある程度何かがないと、この数値を読んでも、よくなったとか、そういうようなことで読めますかね。この作り方非常に恥ずかしくて出せないと思いますよ。外に出すんだったら、その中で、これ、これぐらいは何とかしないと見直しを。作ったものは作ったもので結構ですが、中でもう一度話をさせていただいて、これは、別に隠すこともない資料でありますので、情報公開請求が出れば、必ず出さないといけないですが、ならば、間違いがあるかどうかを丹念にチェックしていただいて、ある一定期間チェックが終わったら、できるだけ早い段階で、何らかの形で公開する場をつくり、みなさんからさらにここがおかしいとか意見を真摯に受け止めて、平成 24、25、26 にいくぞということで、ぜひとも示していただきたいなと思います。

(竜田さん退出)

扇本委員：朴会長がおっしゃられたんですけど、せっかく作られたので説明を丁寧に、これは、こういうことでこうなりましたとか。原因は、こうです。今後こうしていきます。とかをおっしゃっていたので、今後そうしたらいいと思います。非常に読みやすくなって、伊勢市もがんばっているんだとか、行政がそれだけがんばっているならば、市民である自分たちもかんばらないといけないと思ってもらえればいいと思うので、その辺をもうちょっと見せれたらいいと思います。これは、あくまでも「環境基本計画」に基づく結果なんですね。

事務局：そうです。

扇本委員：従来されていた ISO。内部での市職員が環境活動をやってきた活動報告ではないので国とか県がやっている環境白書というものです。こまかいですが、5 ページで重点事業に位置づけられている、昨年 12 月に「伊勢市地球温暖化防止推進計画」が策定できたとありますが、これが、括弧書きで米印で表記されているのでちょっとさみしいなど。それまで「エネルギーの地産地消」については、文章で書いてあって、肝心の「推進計画」のほうが括弧書きなので、もっとこれが一番大事なのでそのようにすると、14 ページの重点事業 7 の一番下の農用地面積における遊休農地の割合で 23 年度に数字が下がったのは、測定方法

が正確になってということをおっしゃられたので、その辺の注釈をつけられるとか。

事務局：全体的に注釈のほうをつけさせていただきたい。

扇本委員：20 ページで重点事業 8 でホームページのコンテンツ数の把握できなくなったということは、ずっとそうになってしまうのではないですか。

事務局：23 年度から市のホームページのシステム自体が全面改訂され、ページの作り方自体が変わりました。これにより単純に増えた、減ったということが数字を出すことは可能ですが、今回はこういう形で報告させていただきました。

扇本委員：比較するものがなくなるんですね。ただ、目標としては当初作ったものがあるので、特におかざるを得ない。

朴会長：ありがとうございます。ここの部分も非常に大事でして、基準が変わったら、変わった形で、新しい基準を立ててやっていくぞ。早急に考えてやらないと、いつまでもコンテンツが変わったからできません。23 年度は変わったから当時の基準ではできないけど、23 年度の部分の数字と二つにして 24 年度がどうなった。25 年度がどうなった。という形で説明をすれば、わかる話で、目標を立てたから何が何でもということではない。PDCA というものはそういうものです。もうちょっと工夫をしていただければ、こういうことは、みんなが一番知りたいもののひとつかもしれない部分で、どうなっているのって時に、システムが変わりました。寄せ集めだけで終わったような感じがします。寄せ集めたものを中でどれだけ吟味したのか。たぶんしなかったんじゃないかな。だからこういうことが起きて、一回ちょっとちらっと見るだけでも、皆さんが知らないわけがない。そこができなかったということは、数字を集めてそこで精一杯だったかもしれない。今日終わった後からでも、もう一度吟味していただきたい。

金田委員：「環境報告書」は今回始めて。これまでは、「えこのおと」。

事務局：昨年度もこのような形で報告はさせていただきました。

金田委員：環境基本計画で定められている毎年度こういうことをしましたよと、国でいう白書みたいなもんですね。それを今回いかにわかりやすく、皆さん方に伝えるために作られたものだと。そうすると、この中で、これが一番わかりやすいかということであれば、そうかなという感じがしますが、ちょっと疑問に思ったことは、環境課で実施するものは割愛されていますよ。2ページに環境課主管事業は明記してありません。実際に課という単位でものを考えるのではなく、市として何を実施したかということが、大事であって、課の名前が記載されていて、別に大切なことではないが、環境課で実施したことも大事なことで、なんで明記していないのか。

事務局：明記していないところは環境課で管理しています。

金田委員：環境課こそ一番重要なところなので、書かないことに理解できない環境課であろうと、他課であろうとやったことにはかわらない。市として、市民に報告するわけですから、市としてやったことをここにわかりやすく書くべきであって、環境課の事業は書きませんではなく、合点がいかない。24年度はいつごろになる。1年ぐらい遅れると意味がないので、24年度は6月とか7月に出るんですか。

事務局：議会との関係もありますので、9月議会で前年度の決算報告をします。数字が確定しません。

金田委員：そうするとどんなに早くても10月頃にならないとでない。

朴会長：それも、違いますよ。23年度を確認したのは遅いと思ったからです。3月で年度が終わったときに連絡したら、遅くとも6月頃には数字が揃います。そこを予算や何やらで公開するのが何月になります。ということならば、わかりますが、まるっきり1年遅れのことを今言たって、今見直ししたって、1年、2年後じゃないですか。委員も変わりますしつながりとか次にやっているとか、スピード感がないですよ。いくらISO返上したとはいえ、このシステムを動かして何とかやっていく部署があるならば、もうちょっと、特に環境は時々刻々と変わっていくのに、私たちここで、1年、2年前のことを議論するのがむなし。

金田委員：今回決算とおっしゃられましたけど、決算に関係するものをずっと見ているんだけど、全然お金のことがないから、どんな関係があるのですか。

事務局：行政の悪いところですが、ひとつの仕組みの中で、決算議会は前年度の事業や内容も含めてお認めいただく。したがって、事業の報告の最終的にまとまるのが10月の初め頃

金田委員：お金に関することはわかるんですけど、ほとんどここに書いてないじゃないですか。

事務局：事業の結果も含めて数字が確定するのが10月の初め頃。

金田委員：実績だから、変わりようがないと思うが。市民に知らしてもよいのではないか。

事務局：一般的にはそのように思いますが、議会と行政の関係において、ご理解をお願いします。朴会長がおっしゃったように数字のほうは6月頃にまとまりますので、その段階で環境審議会へお示しさせていただいて、このような数字がまとまりました。決算議会承認後に、このような形で公開させていただきたい。次回以降なるべく早くしたいと考えています。

大西委員：作成に時期ですが、先ほど5ページの指摘があった「地球温暖化防止計画」策定の表現を省かれたのは、おそらく23年度版だからということだと思うんですよ。私も読んでいて、何で一番肝心なことが抜けているのかなど。よくみたら23年度版ということで、そこを省いたのかなと理解したが、策定期間があまりにも遅すぎます。例えば、県のデータも使用していいと思う。県から断りをもらい。市民として、伊勢の環境どうなっているのがぱっとみわかるので、県の環境白書も遅いですが、23年度版は遅くても、23年12月までに公表しています。県が公表前に数字を使用するとちょっと県も困るので、県の数字も含めて掲載するならば、県の時期と合わせて速やかに公表しなくてはならない。24年度の終わりに23年度のデータをどうのこうのというのは言い訳です。23年度版は遅くても、23年12月までに公表すべき。6月

にできれば、いいですけど、県のデータを取り込みたいとなれば、物理的に難しいですけども。それと公表しなくてはならない。

朴会長：自力で人が足りなくてできないのであれば、いいでしょうよ。環境課に人が足りなくて、できないのであれば、人員を増やすかコンサルを入れるかお金をかけるしかないです。こんなやり方でやるのは腑に落ちない。私を含めて1年も2年も前のことやるために集まったんじゃないですよ。いろんなところで、環境審議会をやっているが、私はこれが、23年度じゃなくて、24年度のものでできて、早いなと思っていたが、これが、23年度のものなので、なんで緊張感がないんですか。環境の最高意思決定機関じゃないですか。よく審議会に出しますね。私がここで、審議できませんといったらどうするつもりだったんですか。その権限ぐらいあると思いますよ。ちょっときつしようだけど、伊勢市を愛しているからこそ、もうちょっと何とかできませんか。

山本委員：素朴な疑問ですが、23年度の「環境報告書」ということは、24年6月には出来上がっていて、10月の議会に報告しているものではないのか。

朴会長：その通りですよ。

事務局：6月というか9月に議会に報告していますので、10月頃にはお示してきた形にならなければならなかった。

山本委員：この報告書の提出は25年度議会へ報告することか。もし、そうであれば、議会ではこんな資料は古いといわれますよ。

朴会長：たぶん終わっているんですよ。

山本委員：今更、私たちが議論しても無意味では。もうひとつ素人的に見て、やりましたという単なる証拠付け。内容云々というよりも。

事務局：注釈や説明部分で、結果はこうでした。以後目標に向けて取り組んでいきます。というような文章が抜けている。

金田委員：印刷物として公表するのか。24ページや25ページの基本計画との係わりという風にも書いてもよく知っている人でないと、あまり意味がな

い。できるだけ無駄は省いて、見る人がいかにわかりやすく。どれだけ金を使ったか書いてないし。これら重点事業には予算が伴っているわけですね。伊勢市としてこういう事業をしたとかがわかるように。パーセントがあるのは、アンケート調査の結果ですか。24年度はもう終わっているのですか。

事務局：調査済です。

金田委員：そうしたら、今の段階でわかりますよね。

朴会長：アンケートの母集団はどのくらいありますか。

事務局：1000 アンケートです。

金田委員：無作為に抽出してですか。

朴会長：みなさんどうでしょうか。

大西委員：一度「えこのおと」みてください。きれいにまとめてありましたよ。なんでこのような形になってしまったのかわからないんですよ。「えこのおと」はずっとインターネットに載せてありました。22年度からないんですよ。22年度から環境報告書になったんですね。

事務局：そうです。

大西委員：ですから、こういうのはあまりスタイルを変えずに継続的に事実だけを載せていく。報告書ですから、今後どうするというのは不要だと思います。事実はこちらです。現状はこのようなことをしました。

朴会長：そうじゃないと説明的に問われますよ。伊勢市は環境に対して説明責任を果たしておりません。PDCAが回っていない。「環境報告書」は重い。そうしたら、今日の議事は、「環境報告書」についてみなさんから厳しい意見が出てそれをどの様に見直すのか。できるだけ早い段階で実施していただきたいと思います。細かいところについては、いろいろ気が付いている委員に申し訳ないけども、意見を事務局に出していただくことにして、これに連動することですが、事項書の(2) H23-24環

境審議会活動等について、これは、どういうことでしたか。

事務局：今回で2箇年の任期を終えるため、言い足りないことの見解をいただく場です。

朴会長：既にいろんな意見が出ていますが、この部分に関して、みなさん意見を言っていただきたいと思います。ご自宅に帰って意見が出たら、できるだけ早い段階で事務局に言ってください。残りの時間不満ばかり言うこともないですし、いいことも言っていただくとし、今後、限られた人数でうまくやっていくためには、ひとつの手は人が増えなかったら、お金をかけてコンサルをうまく利用するか。だから、委員会でそういう意見もあったことを何らかの形で伝え、市長がどの分野が優先だということもあると思いますが、委員として係わっていて、私の記憶するだけでも、「基本計画」や「温暖化防止計画」、「エネルギーの地産地消」のことや、盛りだくさん次から次に出てきて、結構皆さん大変だと思います。ここには、直接関係ないんですけども、ボランティアになるんですけども、伊勢は低炭素社会の実証実験という形で県とのタイアップで式年遷宮で人がたくさん来るんですが、電気自動車必ずしも二酸化炭素ゼロとかにならないけど、今のところ、技術的な部分も含めて、ガソリン車両よりはいいかなという形で電気自動車等を活用した側面からの話をしていて、伊勢市は三重県の中で一番活発なんですが、内部はこのような形になっているのが、悲しい。実際には自動車会社の思惑や事業者の温度差などで、どこまで思ったような成果になるかはわからないんですけど、私としては、オブザーバーとしては大いに結構ですけども、市も情報を公開して、少なくとも委員の皆さんには伝えて、環境に係わるものとして、市が県と一緒に国補助金を取ろうとしようとしているので、「歩くまち・クリーン自動車のまち」で私たちがひとつの柱立てしたのを見える形でやっている。たぶん皆さんは、そういった情報は新聞やテレビを通じて聞いていらっしゃるけど、こういう場で時間があったら、来てください。みなさんが市民として、思いがあるなら、教えてください。ということがないまま、動いている。やっている私から見るともやもやがありますし、なんで共有ができないんだろうという思いがあるんですが、皆さん中では、次回の会議では、委員のみなさんが変わってくることもあるだろうし、委員として感じたことや次の審議会が発展できるように、総合的に伝えてほしい。要請、要望があると思いますので、感

想でもいいので、全員から意見をいただければ、ありがたい。時には議事録に載らないこともあると思います。ここからは、オフィシャルでありながらも、非オフィシャルな形でざっくばらんな話を聞かせていただきたいと思います。もう一度言います。議事録などには反映されません。内部で意思が通じるような形で、平成24年度審議会は最後ですので、いろいろ話を聞かせてください。座った順番か思いのある順番かどうでしょうか。レディーファーストで扇本さんから。

扇本委員：私は今年度からですが、昨年度の前任者の話を聞くと、今年は、伊勢市では、「地球温暖化実行計画」を作ると聞いており、非常に厚い資料が送られてきた。それをまず読まなきゃというのがありまして、県庁でも直接温暖化には係わっていなかったもので、まず、勉強から。参加させていただいて、それぞれの企業さん住民、学識経験者の方から意見を聞きながら、そういうもんなのかという勉強になりました。なかなか、こういう審議会では本音ではしゃべらない。この伊勢の場合では、大いに意見が出て。最初はグサツとくることもありますが、それをチャンスに捕らえて、よりいいものを温暖化の計画もそうでしたから、非常に厳しい意見もでて、一時はどうなるのかなと思っていましたが、伊勢市に対する期待なので、前向きに捕らえて耳が痛い話もあると思いますが、今後もできることは県も協力させていただきますので、めげずにがんばってください。

朴会長：やさしいモードで。大西さん

大西委員：厳しいことをいうことになるかもしれませんが、今日は最後ですから、厳しいことは言わないでおこうと思います。冗談はさておき、私この2年間振り返りまして、各種の諮問ですな。何回もいいましたが、ということは、「温暖化防止実行計画」を作成する場合は基礎的なデータは事務局が集めて、本来ならコンサルに委託をして、事務局と十分に練った上で、市長からこの環境審議会へ諮問すると。いうのもひとつの方法です。伊勢市さんはそのタイプを取らずに、白紙の諮問ですな。ですから、白紙の諮問ということで、もう、事務局は大変だったと思います。その分、実になることもたくさんあると思うし、いろんな気づきもあったと思います。これは、市が決められることですから、原案でないといかん、白紙でないといかん。ということはないとおもいます。私は、他の審議会にも係わってけども、ここは性格上、原案

諮問なんです。ガチガチに固めた原案をこれでどうでしょうかと審議会の意見を聞く。オーソドックスな審議会です。ですけども、伊勢市の環境審議会というのは、白紙諮問ですね。これがダメとはいいません。これは、考え方です。この前も言いましたように、環境課というのは、審議会の庶務をやる。議論した中を取りまとめをしていくという作業をときどき環境課さんは取り間違えている部分がある。市長の傘下の環境課という位置付けと同時に、環境審議会の庶務をやっている。ですから、ここで議論したことを取りまとめることも環境課さんの仕事なんです。ですから、白紙諮問ということになりますとますます環境課の仕事のウエイトが高いということです。ですから、その辺は十分ご承知をいただいて、やっぱり諮問していただく。これが、本来の姿だと思います。2年間感じましたのはそのことです。

朴会長：やさしいですね。やさしさの中に鋭い本質があることは、おわかりだと思います。

山本委員：2年間入らせていただいて、環境に関しては素人です。逆に素人からみて一般市民の声に近いのかなと感じていただければ、多少でも参加させてもらった効果があるのかな。全て意見を聞いていただく、10分0.1でももし、参考になることがあれば、参加させていただいた甲斐があるかな。

金田委員：普通の審議会ではイメージするのは役人の方が作られたものを審議して。非の打ち所のない資料に対して追従するのが普通のパターンだとおもうのですが、この場合は、根本の考え方はそんなに違わないんですが、様式とか文言や余分なものが入っていたり、わかりにくかったり、そういう部分が多かったと思います。2時間という限られた時間の中で、そういう部分はきちんとあって、もっと本質的なことを論議する場であってほしいなと思います。事務局から出されるものは、審議会ではへんないちやもんがつけられることが無いように、これしかないというような気持ちの資料を提示していただければ、そのスタートラインに立って、よりよいものが生み出されるということです。そのここで作っていくというよりも、さらに発展できるように大変でしょうけど、限られた人員の中で、担当者だけにお任せするのではなく、別の眼で見るとおかしいなという指摘があるので、そういう資料をお出ししていただきたいなと思いました。

朴会長：やさしいな。

夏山委員：私ずっと欠席が続いておりまして、会長はじめ職員の方々にお詫びしなくてはならない。今日は思っております。個人的な感想ですが、5、6年前でしたか、ライオンズクラブの会長させていただいたときに、朴先生一生懸命「ノーレジ袋運動」をされていました。私どもも何枚か市民の方に配布していただく目的で、市長さんに贈呈させていただいたことがあるんですけども、その時から伊勢は抜きん出てこういう環境問題に取り組んでいたと思うんですね。今日に至って、鈴木市長、坂本課長はじめ、職員の方々ご苦勞をなさっているのだと思いますが、大西さんとか金田さんご指摘のあったような前の「えこのおと」ですか、事実だけを載せていけば、いいのではないかと私も個人的な感想ですが、皆さまのご指摘に重きを置いて今後励んでいただければと思います。

外山委員：私も途中から参画したということで、最終の会で23年度結果を今やるというのは民間では少し考えられないと思います。公開するという重要な職務を行政の方はおありだと思いますので、その辺はあるのかな。私ども25年度に向けて目標を立てる状況です。達成しているのであれば、我々なら目標を見直す。もっと増やしていくというのが、普通なんですけど、その辺が違うのかなと。それから、自分のところの話で申し訳ないのですが、買取価格も高いことになっておりますので、中部電力の伊勢の管内だけで申しますと、三市三町ございますので契約数で4500件ぐらいございます。伊勢だけでは2000ぐらいきていると思うんですけど。ところが、メガソーラーというのがたくさんございます。1000kw以上を指すんですけども、申し込みをすれば必ず連係できるかというところ必ずしもそういうような状況ではございません。まず、お金がかかるケースがございます。それから、規制緩和等の委員会で見直しをされていることがございますが、変電所の容量以上のメガソーラーがあると電圧が突き上げちゃうのでそれは、できないとご返事させていただく。伊勢市環境課が一生懸命していることに中部電力が水を差すのかというお叱りをうけるんですけども。そういったケースも中にはございますので、私どもは再生可能エネルギーを否定しているわけではございませんので、どんどん推進していただいて結構ですので、系統的に非常に難しい場合もあるということで。今非常

に多くの関係申し込みをいただいております、環境先進市の伊勢ということで、そこで、働かせていただいていることを誇りに思いながら、EV もよろしく申し上げます。

朴会長：伊勢市はラッキーだね。私から見るとフリーライダーって言うんですよ。ただ乗り。私ほんと口が悪いですけども、伊勢というなんとも言えない魅力バックグラウンドがなければ、私もなんでこんなに怒りながら、なんでこんなにもやるんだらう。大学も殿様商売でやってきたけど法人化になって、こんなのやってたら、石が飛んできますよ。今時、こんな話をするの。私辞職しなければなりませんよ。環境に係わる責任問題として。それぐらいシビアなんですよ。それを今みなさんやわらかく言っているんですけども。わかっていますよね。特に課長。

事務局：はい。

朴会長：中間管理職が一番大変なので一番わかっていると思いますが。若者引っ張って。部長は坂本さんに優しくして。市長と直接交渉するなりそういう形でやっていきましょう。優しく言っていただいて、ありがとう。

外山委員：行政さんも大変なことは多々おありなんだろうと。我々にはわからないことも。

川端委員：非常に委員ということで、素人ということと組織の一員として出てきていることもあるんですが、なかなか発言しづらいことがある。ただ、JA なんて生産者の組織代表というところで、もし出てくれば、それなりの話をさせていただきたいと思っていましたが、自分の組織もそうなんですが立派な計画ですが、絵に描いた餅であったり、組織の話をさせていただきますと、非常に環境であったり、企業価値を高める行為は、前向きになっているということはありません。如何に実現するかという仕組みづくりは、待っている状態なので、お願いしたいなとおもいます。財政も厳しいときだと思いますので、委員とは別の話でいっしょになってできることがあれば、いいのかなと思っております。みなさんありがとうございました。

朴会長：自治会の話をちょっと。一番近いところにあると思いますので。

小寺委員：欠席が多くて大変申し訳ございません。特に私からはございませんが、環境というのは大変広範囲である問題でございますが、特に自治会の立場で言いますと、推進基盤というような形の中でごみの収集が各戸収集から集積収集へでしておりますけども、市民にとっては、むしろ、サービスが後退したという現象です。いままで、伊勢市は各戸収集をしてもらっていました。そのごみの収集がですね、集積収集に変わったということは、そこへ持ち込まなければならぬ。これは、合併問題の流れからそういうことになったんですが、今更とやかくは言いませんけども、できれば、我々から考えれば、よかったのが悪くなった。しかし、悪くなったけれどもそういう形で合併でしてかなきゃならぬのなら、そういう教育もしようということで、自治会で教育もして、それぞれの集積のところへ運んでおるところですが、残念ながら、高齢者が増えてくるということになりますと、なかなかそこへ持っていくことが大変だ。ということもございますので、この問題にどうかどうかということではございませんが、現状としてはそういうような状況ですので、環境の問題として、ここに書かれておりますけれども、どうしたものかなと思います。特に他の問題については、私から申し上げることはございません。

朴会長：そうですね。高齢化社会でどういうある程度のきめ細やかさというのを見失わずやっていくのか。職員はなかなか増やしてくれないんです。減らす一方。そういう中で、地域住民に協力を呼びかける。高齢化社会の中で簡単にいかないものもあると。如何にいい形でミックスしていくのか。これが、行政のこれからの考えなければならぬことかなとおもいます。森林組合の玉串さん。

玉串委員：後半のほうに欠席してしまいまして、申し訳なかったんですけど。広域合併の森林のほうで出ささせていただいておりました。この環境審議会で金田さんが伊勢市の山の中で5000haと広大な土地を管理されておる。いろんな形で意見を出ささせていただきました。環境ととらえるといういろいろやっております中で、生活の中では山から海への連動があるということで、上から下へ流れる水が環境に一つの影響を及ぼすんだ。山から海へと漁業や農業といった流れてくる水の係わりを考えますとまだまだ幅広い分野もあるんかなと。朴会長もおっしゃたよ

うに伊勢市は神宮ということで非常に恵まれた土地でございまして、遷宮とかこういう時代のときに、伊勢市がこういうような形でやっていることをどんどん発信できるいい機会のある場所でもございますので、力になりますので、今後ともよろしく申し上げます。

朴会長：ありがとうございます。欠席の委員もいますので、全ての委員の声を聞くことはできず、残念でしたけども、私のほうからは、一点ほど申し上げて次につなげたいなとおもいます。公募からきていただいている方々、規定があって2年とか再任とかできる、できないかであろうかと思いますが、それぞれ、2年もいっしょに話をしていくといつの間にか口ではきついことも言いますが、仲間なんですね。それぞれまたいい味を出しているのも、同じ場所で2回、3回と再任できないのであれば、環境は幅広いので、いろんな側面でノウハウとか発揮していただくことを考えていただけないかなと。切り口が違うところで会うと、また違った味が出てきて、さらにいいものができる。プラスのサイクルが作れるんじゃないかなと。お金は大事けどもやっぱり人ですよね。市の委員を見る眼はよかった。この人材をいい形で活用できるようぜひとも考えていただけないかな。他方、新しい人材を入れていかなければならないので、そのバランスのとれた、人選は私たちにはできないので、市の権限でもあり、責任でもありますので、ぜひともお願いしたい。もう一点、伊勢に住んでいないからよくわかることですが、伊勢っていろんな意味で恵まれています。がんばっても報われないことがあるが、20 がんばっても 100 ぐらい結果をだすのが伊勢かな。運がいいのも実力のひとつですし、そういうこともいかにしてプラスに持っていくのかも考えていただけないかなというのがあります。

朴会長：今日の報告書は一応認めます。ただ、かなりの部分を直していただいて、できるだけ早くアップしていただきたいと思います。このために審議会を開催することはできません。これで、メンバーも新しい委嘱とかありますんで、会長と事務局一任という形で不完全だという承知の上で認めます。できるだけ早くアップしてください。後はその他になりますが、事務局何かありますか。

事務局：御礼を兼ねて2年間ありがとうございます。今日も大変厳しいご意見をいただきましたけども、朴会長が言われるように、意見を頂戴す

ることによって我々成長すると思います。身内の話で申し訳ございませんが、今頃こんなの出していいんかよと言いましたし、こういう形になってしまいました。民間、一般市民のみなさま、行政との乖離を十分反省しながら、今度修正をさせていただきますして、25年度以降改めて取り組んでいきたい。また、25年度から新しい体制ということになります。引き続いてお願いしなきゃならんということもご覚悟の上、引き続き環境行政にご協力のほどをよろしくお願いします。本当にありがとうございました。

朴会長：ありがとうございました。またがんばりましょう。よろしく申し上げます。これを以って平成24年度第5回伊勢市環境審議会を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

事務局：皆さんどうもありがとうございました。